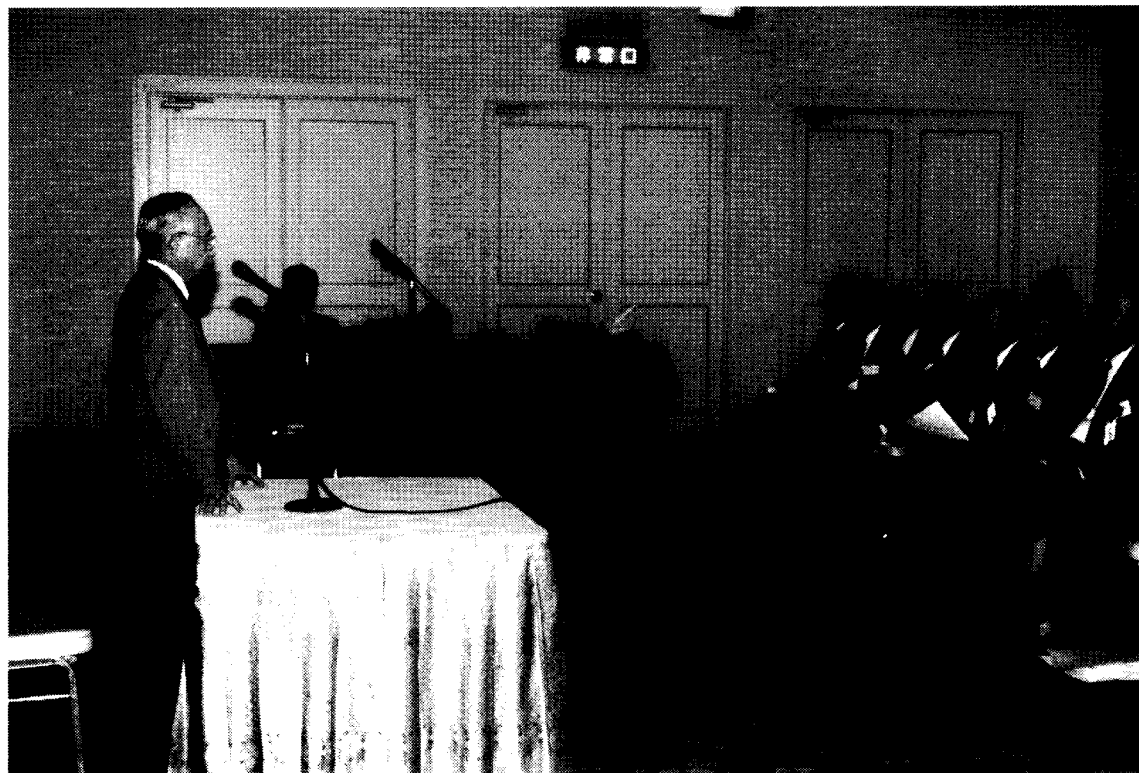


# 多賀工業会 東京支部会報

1998年7月 創刊号



目次	東京支部会則.....表紙裏
	東京支部支部長就任に当り.....渡辺 益男..... 1
	東京支部会報の創刊を祝して.....鈴木 鐸士..... 1
	多賀工業会同窓会25年の歩みを顧みて 山本 奎兵衛..... 2
	会報の『よいわるい』は誰が決めるの! 三幣 正人..... 3
	同窓会雑感.....吉成 理..... 4
	時間と年齢.....依田 連平..... 5
	橘中の楽しみ.....小白井和典..... 7
	俳句のすすめ.....橋本 久美..... 7
	朝の精神衛生..... 8
	ネパール旅行へのお誘い.....近江 義勝..... 8
	第17回総会報告記.....幸道 貞一.....裏表紙裏
	第18回総会のお知らせ.....裏表紙裏
編集後記.....裏表紙裏	

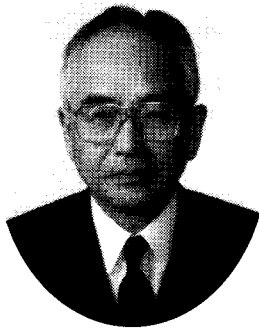
# 多賀工業会 東京支部会則

昭和60年6月7日

1. 本会は、多賀工業会東京支部と称する。支部事務所は、東京都千代田区麴町1-4 東條会館内におく。  
会員は、多賀工業会会員のうち東京並びに近隣に在住在勤する者で組織する。
2. 目的と事業
  - 1) 会員相互の親睦を図る。
  - 2) 情報交換の場とする。
  - 3) 発展向上のための講演会及び研修会などを行う。
  - 4) 本部理事会に建設的な意見具申をして、母校の発展と会員相互の利益を図る。
3. 役員
  - 1) 役員は、支部長1名・副支部長若干名・幹事(卒業年次毎に各1名以上)とする。
  - 2) 幹事長1名・会計1名・会計監査2名は役員の中より支部長がこれを委嘱する。
  - 3) 役員を選出は会員の中から総会で決定する。任期は2年とし、重任を妨げない。
  - 4) 本会は総会の議決をもって別に顧問・相談役などをおくことができる。
4. 運営
  - 1) 総会は、年1回開催する。それ以外に必要性が生じた場合は役員会へ図る。
  - 2) 役員会は、支部長が運営上必要と認めた役員をもって開催し、出席者の3分の2以上の賛成を得たものを決議事項とする。
5. 会計  
会の運営は、行事出席者よりの徴収会費、寄附金および本部補助金でまかなう。会計年度は4月1日より翌3月31日とする。
6. 総会開催日は、多賀工業会会報誌面に発表するとともに書面にても通知する。

注) 3…改正、4…一部追加、5…一部改正、6…一部追加

平成9年9月27日



## 東京支部支部長就任に当り

渡辺 益男 (昭19専精)

昨年の多賀工業会東京支部総会で私が次期支部長に選ばれました。

東京支部の生まれるまでを振り返ると、東京支部発足以前は東條社長(昭18専原)の御好意による場所の提供や卒業生の最も多い東京という条件にもかかわらず仲々軌道に乗りませんでした。毎年100名以上集まる現在と比較すると、今昔の感と存じます。

われわれ同窓の多くが日本産業の躍進期卒業であったため、仕事以外の時間が出来なかったことも一つの理由と思います。

しかし、日本産業はいま、大変難しい節目にきて居ります。政治も経済も革命的改革を求められて居ります。こんな時代に生きたわれわれも走ることをやめて、自分の人生を考える時になりました。

しかし、いつの時代も腹を割って相談出来る良い友人を沢山持つことが、自分の心の財産になると思います。今までこの総会に欠席がちであった方も友人を誘い合い、是非秋の総会にお出掛け下さい。

旧交を温め合い乍ら親睦を深めることや、ゴルフ、写真、旅行など趣味の会を企画することも楽しい明日を迎えることにつながると思います。

総会への御出席と、任期中の私への御協力をお願い致します。

## 東京支部会報の創刊を祝して

多賀工業会理事長  
鈴木 鐸士(昭39学機)

多賀工業会東京支部の会員の皆様には、ますますご清栄のことと推察いたします。この度、東京支部の第1号会報を発行されますとのこと、お慶び申し上げます。会報の発行は何かとご苦勞が多いところをめでたく創刊の運びとなりましたことをお祝い申し上げますとともに、東京支部の役員の方々を始め会員の皆様のご尽力の賜と敬意を表します。これを機に東京支部の同窓会活動がますます充実されるものと期待いたしております。

「会員相互の連絡ならびに共励共助」とい

う多賀工業会の同窓会としての一番大切な役割は、クラス会あるいは企業内の同窓会などの極く狭い範囲では、特別な組織を必要とすることなく比較的容易に実施されておりますが、その地区あるいはその地方といった広い範囲になりますと、支部活動を通じて果たされております。東京支部のように会員が多い場合には、支部組織を円滑に運営して行くには、支部長さんを始め役員の方々は大変でしょうが、潜在する会員の活力は計り知れないほどに大きいので、大いに頑張られて下さい。

世はまさに情報化社会であり、近いうちに「会員相互の連絡」にインターネットを取り入れるように準備していますが、同窓会活動の要点が大変読み易く編集され、定期的に会員の皆様に届けられる支部会報はますます重要なものになると思われまます。多忙なため支部総会などの支部の催しには参加できなかった方々にも活動の様子を的確に連絡できますので、それだけを考えても支部会報の役割は大変大きなものです。引き続き立派な支部会報を発行されて、

東京支部の同窓会活動をますます盛んにしていただけますよう会員の皆様をお願いいたします。

来年には、茨城大学工学部創立60周年並びに新制大学として発足50周年を迎えることになります。誠に記念すべき時期にあたりますので、東京支部を初めとして各支部の活動を一層盛んにし、多賀工業会の活動を飛躍的に発展させていただきたいと願っております。

## 多賀工業会同窓会25年の歩みを顧みて

水戸勝田支部支部長

山本 奎兵衛（昭20専通）

私は昭和48年第一次石油ショックの時から同窓会活動をはじめました。40才で電電公社の部長を脱サラ、郷土茨城で電気通信事業の会社を設立しました。旧制中学の先輩、故柳生 勉氏とは昔から交際しており、当時柳生さんも事業に失敗し、私も脱サラで高度成長のツケがまわり、狼狽えていたときで、ちょうど困りはてていました。これからは人間関係が大切で人脈が必要だと先輩にいわれ、同窓会活動に取り組みました。柳生先輩は茨城支部を考えており、当時日立の先輩に当たりましたが、すでに日立支部は現存してるので水戸・勝田地区にしほりました。私は学校の名簿もなく、一人一人を尋ねてあるき2～30名の発起人と水戸の大塚屋で催したのは昭和50年の春でした。支部長が柳生さん私が幹事長ということで、水戸・勝田支部を創立することにしました。

各企業に分会をつくり、日立製作所5工場に分会、県庁、東海原研、動熱、各工業高校、NTTなど夫々に分会をつくりました。総勢1500名柳生支部長の会社コロナ電気(株)に事務局をおきました。亦親睦会と

して、まゆみ会を設け、会員の祝賀や励ます会等その都度開催したりゴルフ部会を設け毎年春・秋ゴルフコンペも実施しております。昭和61年日立一高甲子園野球出場に柳生さんが応援に行き急死したので、私が工業会本部副理事長・水戸勝田支部長を兼任することになり同窓会がおもしろくなりました。これは私の性格にピッタリで公務員、社長業をしておりますと「人を使わない」「競争相手はない」「お金はかからない」をして常にガキ大将でいられる。これが私が25年間永い事飽きずに出来たのです。水戸・勝田支部創立の翌年、柳生さんと日立一高県中支部（水戸・勝田地区）も創立しました。柳生さんが支部長、私が幹事長で総勢2500名です。私はその翌年日立一高多賀支部も創立しました。これは3000名そして幹事長となり柳生さんの急死迄の15年間は三支部の幹事長を担当し会社の社長業はソッチノケ、毎日毎日が同窓会の仕事でした。

私は全国に支部をつくり、日本列島多賀工業会の人脈のネットワークを造ることが大きな夢でした。北は仙台、南は九州まで、

七つの支部をつくりました。又地元を強化しようと思い、昭和52年には茨城懇談会をつくり、当時の県知事 竹内知事を招き母校において四度にわたり茨城懇談会も催し盛会をえました。県南地区(土浦・つくば)にも支部づくりを考え中川ヒュームカンの亡き社長にも何度かお伺いしました。

県内に県立高校の先生方がおおいので、茨城高校分会も設立し現在100名の現役の活動は活発です。私は電電公社OBなので現役中NTTまゆみも設立し、現在も年一度はNTTまゆみ会が催されております。これらの組織は本部の組織から認められておりません。しかし、厳然として同窓会が集まって団結をはかっておりますが、私のモットウである「人脈は金なり」「金脈は無限の宝なり」この宝には税金がかからぬ、

と同窓生に呼び掛けてきました。

昨年の春、黄綬褒章を受章しました。昭和63年には電気通信産業の功労賞を受賞しました。私にとっては二度目の受賞。これを人生の区切り転換と決心いたし、昭和48年以来25年間永い間私の道楽同窓生活動をさせて頂き有り難く感謝しております。おかげで日本列島各地に同窓の親友が出来、この親友を大切にしていきたいと思います。

2月には、多賀工業会水戸・勝田地区に元氣会を発足し交流を深めてゆく予定です。この元氣会の組織は役職の任期もなく、一生涯努めることができ私にとっては、誠に結構な職務と思ひ一生頑張っていく覚悟です。

以上

## 会報の『よいわるい』は誰が決めるの！

千葉県支部支部長

三幣 正人 (昭24専機)

千葉県支部の会報は平成10年度4月・19号9月・20号を発行することになっている。1年2回の発行だからタツプリ10年、ヨクモマーア こんなに長く続いたもんだと呆れられたり驚いたりしている。

思えば10年前、いつも同窓の絆で繋って活発な支部活動をしよう！

活性化のために何時も会員の動向・消息を承知しなければならぬ。その方法に会報はベターの手段だ。でも作成のためにも、通信・郵便のためにも「カネ」がかかる。そこで最低必要な「年会費」の徴収と「会報」の発行を参加者の総意でルンルンのうちに決めてしまった。「勢い」と「若さ」があった。

「会報」に編集の「ネタ」の原稿は欠かせない。熱気がムンムンしてた頃はページをオーバーするほど「ネタ」が集まった。そんなときは、個人の好みで「…デアル」

調もあれば「…デアリマス」調もあったので「…デアル」調にして「字数」を減らしてもらったり、編集方針で次号に回したり、取捨選択したり、編集冥利に尽きたこともあった。バブルがはじけ世情が悪化すると、「ネタ」どころやない、確かなことは分からぬが兎に角「ネタ」の集まりが極端に悪くなった。メ日が近くなって萬事窮す！用意した「埋め草」でなんとかその場を取り繕うことが多くなった。“頬かむり”は後先寒い。

今度は内容が素晴らしい・挿し絵も奇麗・随所に写真も入れた・読み易い・細部まで神経をつかいろいろ気を配ったし、垢抜けた装丁だ、そのため随分苦しんだ。だから印刷された会報を送るとき1000部発行して半分は読んで呉れる。30%は会費を納めて戴ける。10%は総会に出席してくれ

る。なんて、祈るような胸算用もした当事者なら至極当たり前のことだろう。

だが問題はこのような目安が大きく下回ったときだ。

担当者はサズがっかりするでしょう。そこで「会員よもっと目覚めて呉れ！」と居丈高に吼える。果たしてこれでいいのでし

ようか。一寸変ですネ！どんなに立派な計画でも、またどんなに辛苦の企画でも『成功か否か』の判断基準は「一人でも多くの会員の方が喜んで参加してくれること」だと厳しく受け止めていけばもっと新しい発想が生まれるのですから。

ご健闘を祈る。

## 同窓会雑感

埼玉支部支部長  
吉成 理（昭28学電）

今回東京支部で会報を発行するので、何か書けと近江幹事長より依頼がありました。私には他から依頼されて物を書く程の才もないので何を書けばよいのか問い返したところ、埼玉支部のことも書いてくれればということでした。しかし埼玉支部については、ご案内のように平成5年から毎年会報を発行し、全国の各支部にも配付しているので、今更埼玉支部でもあるまいと、僭越ですが同窓会として極めて低調な多賀工業会について——私の認識不足かも知れないが——最近感じていること、考えていることを書いてみようと思いました。

なぜ、多賀工業会が、一部に熱心に活性化に努力している方がいる反面、その何倍、否何十倍の無関心派がおり、年々その傾向が強くなっていくのはなぜなのでしょう？なぜ若年層になる程同窓会に関心を持たなくなるのか、こういう傾向は、わが多賀工業会だけでないようですが。

何もかも現在の学校教育のせいにする積りはないが、学校に行けば、偏差値がどうのこうのと友達を野菜に見立てるか、敵視して、受験のための勉強に終始し、家に帰っても友達と遊ぶなどということはさらさら無く、塾に行くか、自室に閉籠るかでは、一部のスポーツとか、クラブ活動をやっている者を除いては、親しい友達など出来よ

うはずもなく、まして友情など育つわけがないだろうと思います。矢張り“よく学び、よく遊べ”の精神が必要じゃないでしょうか。これも近年の世の風潮だとすると気の毒な気がします。

吼洋寮にしても建物は立派になったが、2人の個室になっており、自炊か外食で往時のような大食堂で一堂に会して、先輩・後輩の別なく食事をするというようなことはまずないわけです。このような学生生活を送っては同級生はともかく、同窓意識の芽生えようもなく、どこかの会社に就職でもしてしまえば、卒業した大学など途中下車駅位にしか考えていないのではないのでしょうか。（駅弁大学とはよく言った。一意味は違うけどー）

わが母校でも半数近くは大学院に進むご時世ですから、学問的あるいは専門的知識においては卓越したものを持っているのですが、母校を愛し、人（友）を愛するというような人間的な素養の面において、いささか欠けているのではないのでしょうか。これが若年層の同窓会に関心を持たない一因ではないかと、私の偏見かも知れないが考えてしまうわけです。唯先輩も後輩に対し、役に立つ事があっても先輩風を吹かせない様に気をつかう事も大切でしょう。ご案内のように本部で立派な名簿を発行して

も、卒業生の僅か8%位の部数しか購入されない現状です。このような低迷する現状を打破するには会報の発行も、ひとつの手段として大いに意義あることと心から賛同

し、併せて会報発行に携わる関係者のご苦勞を思い、敬意を表するとともにこれを契機に東京支部の益々のご発展を祈念する次第です。

## 時間と年齢

依田 連平 (昭17専金)

卒業してから56年が過ぎ、今年で喜寿を迎えた。気持ちとしては現職時代と変わらないのだが、光陰矢の如し、人は過去を振り返るとき時間の速さに驚かされる。科学技術庁金属材料技術研究所に勤めていたときの私の仕事の多くが、高温高応力下で出来るだけ長時間クリープ破断に耐える合金の開発研究であっただけに、私自身時間に対していささかsensitiveすぎるところがあるようだ。幸いにも私の研究室から多くの研究報告がなされ、いくつかの超耐熱合金が開発され内外の特許も得られたこと、昭和56年4月退官の数ヵ月前私のクリープ試験部で10万時間（約11年半）を超えるクリープ試験が初めて達成できたことなど大きな喜びであった。

私が研究所で働いた20数年間、時間はいくらあっても足りなかった。つまり時間は急速に進んで、年とともに1年は短くなった。私は忙しいほど時間は短くなると痛感したので、「時間を持て余すような仕事をするな」とよく注意したものである。「年をとって仕事が無くなれば退屈して時間を持て余し早く呆けるから、趣味を持つことが必要である」という言葉はよく耳にする。私はなるほどと思って人にもこの言葉を勧めてきた。果たしてこれは正しいことだろうか。退官後私は三つの大学での講義、週一回位の委員会、出版関係の著述など行ってきたが、研究所時代に比べれば遙かに時間的余裕はある。第一、上から仕事を命じられることが一切ない。自分でいくらでも

時間を設定できるのだ。しかし驚くべきことに時間は益々速く進むのである。あまりの不思議さに、私はこの現象が私だけのものかどうか何人もの老齢の方々に尋ねてみた。その結果20人を超えるこれらの人々すべてが、勿論個人差はあるけれども年とともに時間は急速に進むというのだ。ただ一人だけ、私の最終母校の東京工業大学の後輩の教授からある会合の席で、「そういう考え方は以前にも聞いたことがある。その原因は呆けの進行と共に時間の観念が失なわれて行くためとされている」という返事を得た。なるほど年をとると誰でも記憶力の減退は自覚する。しかし誰でもが呆けるというものではなく、呆けない老人の方が遙かに多い。そして時間の観念が失なわれて行くので、時間速度が速くなるとも断定できない。

時間とは何か、それを考えることは人類にとって最初の科学であり、宗教でもあったわけだが、哲学的には質的に異った二つの時間が認められている。一つは不変、恒常、永劫の時間、普遍的に持続する時間であり、他は生成、転化、消滅の時間、限定された個の時間である。要するに客観的か主観的かであるが、時間を科学的に分類すれば時空や量子の世界の物理的時間(physical time,  $T_p$ )と生物界の生体時間(biotime,  $T_b$ )およびこれに結びついた心理的時間(mental time,  $T_m$ )となる。そして $T_p$ は客観的な、 $T_b$ と $T_m$ は主観的な時間に相当する。時空世界では光速に近づくほど重力効果によっ

て $T_p$ が遅れることはメスバウアー効果を用いた原子時計がビルの頂上よりも底部でほんの少し遅れる実験によって実証されている。 $T_p$ は重力によって伸び縮み、巨大密度が一点に集中して行く、実在が認められているブラックホールの重力場は光速をもっても脱出できず、すべてのものをのみこみ時間も空間も破壊して凝集してしまう。相対論では光速においては時間が停止するので光速の壁は打ち破れない。同様に光速より速い粒子タキオンも光速に接近はしても光速より遅くなることはなく、これも相対論と矛盾しない。タキオンの存在を信じている物理学者は数パーセントにすぎないが、タキオンの世界では時間は逆行する。この時間的逆行は何も不思議な現象ではなく、われわれがよく知っている陽電子は時間逆行電子ともいえる。そして量子世界ではハイゼンベルクの不確定原理により時間は量子的曖昧さの中に消えてしまう。このように $T_p$ の世界はSFの世界と区別できない現状である。

ところで $T_b$ は時間記憶 (zeitgedachtnis) とも呼ばれており、種々の生体リズムを持ち、眠りと目覚めや体温変化の24時間周期を中心にして、早いものは22時間、1時間、1秒、千分の1秒へ、遅いものは26時間、週単位、月単位、7年、17年へと、その活動周期は極めて広範囲である。そして重力はこのリズムを同時化させる親時計であるとされる。1万kmを旅する渡り鳥は日中は太陽の位置で、闇夜は地磁気の方角で、このリズムを利用して正しい航路を飛ぶ。またジェット機のパイロットは、地球の自転と同方向の西から東に行くと時差による身体のリズムの乱れで不調が大きく、逆に東から西へ行くとそれほどでもないという。このリズムは人為的環境変化にある程度耐えるが、やがてその変化したリズムに順応する。しかし基本的な新陳代謝リズムは変

わらないという。年齢の進行と老化がこのリズムに如何に影響するかはまだ知られていない。

さて心理的時間である $T_m$ は必ず $T_b$ と共存する。未来を予知するテレパシーは時間の逆行であり、主観的な時間である $T_m$ は速くも、遅くも、逆行も可能と考えられ、 $T_p$ も同様なので、客観こそ最上とする物理学や数学の世界でも、時間に関しては奇妙なことに主観的といえる。ところで $T_m$ は当然その生体の影響を受ける。人間は生れ出する前の十月十日の月年から、誕生後の乳年、幼年、少年、青年、壮年、実年、熟年、老年、葬年へと年をとって行く。その発生、生成、成長、老化の時間的進展は急速から漸進への変化であり、当然 $T_b$ も $T_m$ もこの影響を受ける。すなわち年をとると心理的時間 $T_m$ は重力下の $T_p$ と同様に遅くなるのである。またわれわれは生体的に如何に老化しても心理的には常に青年から壯年の間におり、長命を願う生体の本能は、無意識のうちに $T_m$ を遅らせている。さらに年とともに増大していく経験、すなわち心理的な過去の重積も $T_m$ の遅れに役立っていよう。生体内の心拍数や呼吸数など生理的現象に基づいた時間でも、大人よりも子供は速く、老人は遅い。この遅れて行く $T_m$ のために、定常的な外界の一年は年齢とともに速くなっていくのである。幼年ではこの逆の過程のために一年は長くなる。そして葬年に達したとき $T_m$ は停止、すなわち零となり、主観的時間は終わる。最後につけ加えておこう。熱力学第二法則では時間は混乱状態が増加する方向へ、つまりエントロピーの増加する方向へ流れる(時間の矢)と定義されており、死は生体という最も秩序ある状態の完全な混乱に他ならない。

質問、あなたの一年は長いですか短いですか？

## 橘中の楽しみ

小白井 和典 (昭28学機)

中国で枯れた橘の木に三斗入りの瓶<sup>ビン</sup>くらしい大きな実が幾つかなっていた。そのどの実の中でも、夫々二人の老人が向かい合って囲碁<sup>ゴ</sup>三昧<sup>サンバイ</sup>にふけていたとの伝説から。

### 「私の囲碁ハイライト」

H 9 / 9 月 伊香保温泉での第5回NHK囲碁講座・セミナーに友人に誘われて参加。有段の部で4戦全勝、指導で来た矢代久美子

女流二段 21才と対戦する事となり、それを小林覚九段が大盤解説と云う晴れがましい舞台での一局とはなった。賞品に大こけし人形。対局記念にピンク色の大花瓶を頂き、同時に日本棋院より四段を認定された。

### 「囲碁を始めて下さい」

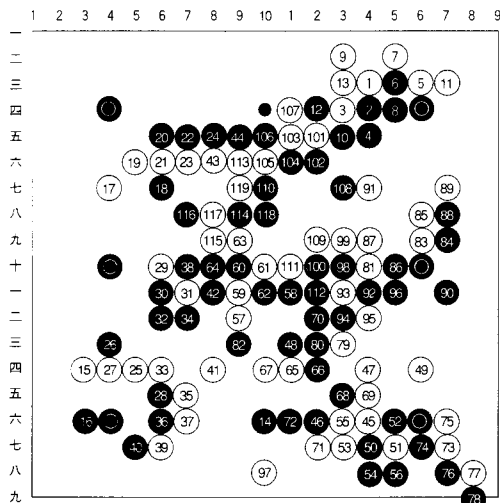
近時、囲碁は世界的に普及しつつあり、オリンピック種目にも入れてもらう運動も始められました。碁は十九路盤上での“斗い”です。相手の着手に対抗して、こちらも作戦を練り、構想を立てて攻撃し、守りを固めつつ打ち進めます。功を奏して、相手を全滅した時は“ヤッタの一語”或は、接戦の末に一目差で勝利、之も嬉しい。唯一人、先人の打碁を盤上に並べるのも実に良い。人の対局を観戦するのも面白い。真に“岡目八目”である。

色々遊び方を変えて楽しめます。今からでも遅くありません。囲碁を始めて下さい。

#### ■NHK講座

伊香保温泉大会に於て4勝全勝優勝者として、公開対局 小林覚九段解説の一局

棋戦名 指導碁  
黒: 小白井アマ四段 (3)  
白: 矢代久美子二段 (0)  
白 中押し  
平成9年9月27日



1~11手図

## 俳句のすすめ

橋本久美 (昭28学電)

「俳句は花鳥諷詠の文学である。花鳥風月に遊んでこの人生を楽しむという事は俳句の生命とする所である」とし、「俳句は極楽の文芸」と高浜虚子は述べている。

とにかく、ご利益のあること間違いない。

俳句をむつかしく話し出したらきりが無い。五七五の定型を守り、季題を一つ入れて対象を写生することである。季題は、一年に生ずる自然現象、行事、生活、動植物につき細かく決められており、春夏秋冬、新年に分類され、歳時記として本にまとめられている。

まずは、歳時記とノート(句帳)を携帯して戸外に飛び出し、眼前の季題を見つける。それを素直に五七五として詠めばよい。

例えば、クリスマスツリーを見て光の点滅の美に感動すれば、

### 「梢まで電光駆けり聖誕樹」 久美

季題は聖誕樹(冬・行事)。この句は俳句を始めたばかりの平成2年、毎日俳壇に初入選したもの。それ以来、職を退く平成4年まで新聞投句のみに集中した。

### 「渦巻いて少しやすみぬ雪解川」 久美

平成3年、毎日俳壇の特選句。季題は雪解川(春・地理)。

### 「秋闌ける酒屋の前の虚子の句碑」 久美

平成5年、俳句結社「屋根」に入会し、その例会で大国魂神社に吟行した時の句。季題は秋闌ける(秋・時候)。

### 「いろいろの落葉根方に掃きしまま」 久美

平成5年、同じく結社の例会で品川に吟行した時の句。季題は落葉(冬・植物)。

俳句の楽しみ方は、始めた年齢、考え方など人によりさまざまである。日記代わりとする、新聞投句の入選を狙う、近くの公民館活動への参加、カルチャースクールの受講、更に俳句結社への入会など。

上達の近道は、信頼のおける選者を身近に見つけ、仲間との句会活動を熱心に続けることかと思う。

## 朝の精神衛生

職場における事故の原因を分析しますと、その時の心理状態に大きく左右されているという結果が事故分析の統計に出ております。

その良い例が朝の出勤前の家庭内での一寸したトラブルです。朝のおかずのことで母親とケンカしたり、あるいは着ようとしたYシャツの釦の取れてることが原因で夫婦ゲンカになったり……。このような事があった時は家を出てからも、会社までの道々「あの時こう言ってやれば良かった。ああ言ってやれば良かった等々」、これがもっと重症になりますと更に帰宅してからの続きまで考えて、作戦を練ったりで、とにかく頭の中はこのことで一杯で、折角家を出る時から手に持っていた葉書も投函を忘れて駅の改札口で気がついたりしがちなものです。でも葉書の投函を忘れてりする位ならまだしも、

信号に気がつかないで自動車にひかれたり、あるいは職場で機械にまきこまれたりしようものなら、これは大変で命にかかわります。

では、このようなことを防ぐにはどうしたら良いでしょうか、答は簡単です。朝送り出す側が口惜しさをぐっとこらえて、笑顔で（もっともここまであるには相当の年季が必要、筆者では無理）「いってらっしゃい」と言えば良いのです。出勤する側はこれで頭の中もスッキリし、帰りにはケーキの1箱も買って帰るかという気分になるでしょう（若し、買わなかったらどうするかって？そこ迄は知りません）。

繰り返しますが、朝の気分はその日一日の心理状態を左右します。毎日を安全に過ごすためには朝の精神衛生に特に注意しましょう。

(編集部)

## ネパールへのお誘い

近江 義勝 (昭28学機)

植田元茨城大学教授が、ネパール唯一の国立大学である「トリブバン大学」の客員教授として、毎年6ヶ月はネパールに滞在しておりましたが、今年限りで引退する事になりました。

昨年東京支部総会の折、「多賀工業会諸兄でネパールに来ないか。案内するよ」とのお誘いをいただきましたので右記の通り2案を計画しました。10月はシーズンでもある故、早く参加人数を組みたいのでお知らせします。至急申し込み願います。(〆切7月31日)

期日：

**A案** 10月11日～14日 学術会議

**B案** 10月14日～20日 観光

A案はカトマンズで学術会議あり  
観光地はカトマンズ、ポカラ、  
ナラヤンガット国立公園、ナガラ  
コート、マウンテンフライト 他  
貸切バスにて観光

費用： B案の時 約 250,000円位

◆詳細は人数確定次第お知らせ致します。

幹事：学電昭28卒 近江 義勝

(昼) 03-3851-4621

(夜) 03-3811-7088

## ◆◆第17回東京支部総会報告記◆◆

第17回支部総会は、平成9年9月27日(土)、東條会館で総会、講演会、懇親会の順序で開催されました。会員の出席は124名(工専50名、大学74名)に達し盛会でした。来賓として本部より鈴木理事長、各支部からは、千葉(三幣幹事長)埼玉(吉成支部長)水戸・勝田(山本支部長)日立(櫻村支部長)いわき(赤津支部長)栃木(植竹幹事長)仙台(綿引支部長)の出席を賜りました。総会では定例の議事のほかに役員改選があり、長年にわたり東京支部の発展に貢献された石井善郎支部長(昭16専機)が退任され、新支部長候補として渡辺益男副支部長(昭19専精)が推せんされ総会で正式に承認されました。

講演会は、ネパールにて思うこと『見果てぬ夢シヤニグリラ』と題して熱力学の権威である榎田昭教授のお話を伺いました。先生のプロフィールについては、柳沢裕氏(昭28学原動)より紹介がありました。先生は昭和29年から昭和37年まで茨大工学部で教鞭を取られ、教え子も多いがその後、成蹊大学を経て、平成3年10月からネパール国立大学の客員教授として招聘され御活躍中です。ネパールは、世界の屋根といわれるヒマラヤ山脈の麓にあ

り、仏教発祥の地として知られますが、現地の風土、国情、教育事情等について平易に解説され、先生のネパールに対する熱い思いが伝わってくる感銘深いお話でした。

懇親会は渡辺新支部長の乾杯の音頭で賑やかに開宴し、お互いに旧交を暖め歓談し寮歌の合唱の頃は肩を抱きあい大いに盛り上がりました。

東京支部では総会后、今後の運営について平成10年3月幹事会を開催し、第18回総会の段取りと、かねてから思案であった支部会報の発行について協議した結果、石川守竹副支部長を編集責任者として全員で協力し、7月には最初の会報が発刊の運びとなります。乞う御期待を! 尚次回総会は下記のように予定しております。

### 第18回東京支部総会開催案内

日時 平成10年9月26日(土) 15時  
会場 東條会館 千代田区麴町1-4  
行事 第18回総会・講演会・懇親会  
会費 10,000円  
講演 新制大学よどこへ行く  
講師 元茨大学長並に工学部部長  
黒木剛司郎氏

### 編集後記

創刊号となりますと本部及他支部よりいただくご祝詞、それに年代の古い会員の方の投稿文で満杯となります。

これは多賀工業会に限らずよその会報も似たり寄ったりで、又これがないと創刊号としては何ともしまらないものになってしまいます。

発行されて3号目あたりになりますと、寄稿文の年代も広がりますし、男性のみならず女性からも寄せられるようになり(本当?)、内容も評論・随筆・俳句・短歌・詩・紀行文・体験記・会員グループの消息記事・催しものへのお誘い等々バラエティに富んだものになってくることと思います。又それを頭に画きその方向で発展させながら会員相互の親睦を図り且つ絆を強めていきたいと考えております。

編集部としては夢は豊富ですが、あまり羽目をはずしますと財政に穴を明けますのでその辺は会計とも相談しつつ、進めていきますが。

編集部の挨拶はこれ位にして、とにかく会員の皆様よろしくご支援願います。

### 支部会費納入のお願い

東京支部は昨年総会時に、支部長交替があり、会員の皆様と共に、活発な同窓会活動を展開し社会の不況を吹き飛ばす覚悟です。

今回創刊した会報も、会員皆様とのコミュニケーションを一層深めたい願いで発行しました。

年会費は、支部活動の活性化の重要な収入源です。よろしくご理解の上、納入手続をするように、お願い致します。

会報に同封しました振込み用紙に、必要事項を記入の上、お振り込み下さい。

■年会費 2,000円

■振込期間 平成10年8月31日

### 東京支部会報【創刊号】

発行日 平成10年7月20日

発行者 渡辺 益男

(株)渡辺建築事務所内

TEL. 03-3987-1946(代)

編集者 石川 守竹

# 多賀工業会創立60周年記念会場

日時：平成11年5月22日(土)～23日(日)

場所：箱根ホテル 芦の湖園

代表取締役会長 東條 重男 (昭18専原)



## くつろぎへのご案内

季節ごとに、朝夕に、その趣を変えるロマンティックな湖水。  
ゆったりと、おくつろぎいただけるよう  
すべてのお部屋の広々とした窓から、  
美しい芦ノ湖が一望できる設計になっております。  
また、芦ノ湖をかたどった大浴場と露天風呂には、  
天然の温泉が一日中こんこんと溢れ、  
身も心も芯から癒してくれます。  
くつろぎの旅をおもてなしする「芦の湖園」に、  
どうぞお気軽におでかけください。

東京・半蔵門東條会館運営 元箱根・芦ノ湖畔

天然  
アルカリ  
温泉 **芦の湖園**

〒250-0522 神奈川県箱根町元箱根 TEL(0460)3-6341～3

■申込方法(ご予約は)

元箱根芦の湖園 フリーダイヤル 0120(851)826 又は  
芦の湖園東京案内所(東條会館) TEL03(3265)5111

## K.K. 渡辺建築事務所

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-4-8

TEL 03-3987-1946 FAX 03-3985-3433

代表取締役 渡辺 益男 (昭19専精)

設計した主な顧客

(官庁)

東京都庁

各区役所

埼玉県庁

川口市等

その他

(民間)

本田技研工業(株)

信越科学工業(株)

日本マタイ(株)

トステム(株)

その他

建築設計監理

(コンサルタント)

著書 工場建築デザイン

(日刊工業新聞社)

平成7年5月出版

空調・換気設備  
給排水衛生設備  
浄化槽各種水槽

} 設計・施工  
保守管理

## 千代田工業株式会社

代表取締役 近江 義勝 (昭28学電)

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-13

TEL・FAX (03) 3851-4621(代表)